

～心臓血管センターからのお知らせ～

心臓血管センター医師のお話①

『胸痛について』

「狭心症」は心臓に血液を供給する、心臓表面の冠動脈という細い血管が動脈硬によって内腔が狭くなり、血流が少なくなることによっておこります。冠動脈が急に詰まると「心筋梗塞」という非常に重篤で命に関わるような病気となります。

典型的な狭心症の胸痛は①数分間持続する②みぞおちから前胸部の比較的広い範囲で背中まで広がるような苦しさ(肩や喉、顎にかけて広がる場合もありちょうどネクタイの範囲)③体の向きを変えてもあまり変わらない④発作的で締め

付けられるような痛みと言われます。心臓が頑張らないといけない時に起こりやすいため、**労作時**(歩行時や運動時、階段昇降時など)にみられることが多く、通常は5分程度持続した後、休んでいると自然におさまり、その後症状がなくなるというのが特徴的です。重症になると**安静時**にも起こったり、持続時間が長くなる場合もあります。**気をつけるべき症状としては、発作的な数分間の歯の痛みや胃の痛みで、歯科や消化器科を受診されても異常がみられず、実は狭心症であったということもあります。特に糖尿病患者さんなどでは症状がはっきりしない方も多く、なんとなく胸に違和感を感じる程度であったり、時々うずくまって休まないと長く歩けないなど、感じ方も多岐にわたりますので、おかしいと感じたらいつでも御相談ください。**

狭心症の段階では、健診の心電図では異常がみられないことも多く、**症状を疑ったら早めに受診**することが非常に重要です。『早期発見さえできれば決して怖い病気ではありません。』

当科では、最新の心臓超音波検査や冠動脈CT検査、心臓カテーテル検査(冠動脈造影検査)により迅速な診断を心がけておりますので、気になる症状がございましたら、お気軽に御相談ください。

【心臓カテーテル検査とは】

細い管(カテーテル)を経皮的に血管の中に挿入し、X線や造影剤を用いることによって心臓血管の形態学的異常を検出したり、心臓内腔の圧力や血行動態を調べる検査です



事務部 私は普段、病棟で入院会計業務や、診療報酬請求事務を行っております。また、高額医療制度など、各種制度の案内も併せて行っております。心臓血管センターのこれからの活動が円滑に進むよう尽力して参りますのでよろしくお願いたします。

中井



看護部 私たちは主に、患者さんが安心して苦痛なく検査が行われるように援助することが仕事です。また退院後も安心して生活が送れるようアドバイスをしていきたいと思っております。

鈴木 遠藤

～各部署 広報担当メディカルスタッフから一言～

診療放射線部

心臓カテーテル検査はX線を使用して行う検査である為心配な方もおられると思いますが、放射線技師は患者さんの被曝量をしっかり管理し適切な画像で検査・治療が行われるよう努めて参ります。



木村

臨床検査部

臨床検査技師は、血液や尿を検査したり、心電図や超音波などを用いて患者様の体を調べる仕事です。早期発見、早期治療に貢献できるよう日々検査をしています。



土屋

臨床工学部

臨床工学技士(ME)の主な仕事は医療機器の操作及び点検等の保守です。カテ室では、医師の介助・各種機器の操作・物品管理等を行っています。



菅原

お知らせ

地域医療連携室で患者相談始めました。患者様、医療スタッフ皆様、診察待合中や入院中の空いた時間など何かありましたら、お気軽にご相談、お立ち寄りください。

※次回は4月発行予定、心臓血管センター医師から『足のお話』と、医事課から『心臓血管内治療における費用のお話』予定です。

※乞うご期待ください